

#### 第四節 一號機雷用法ニ關スル變遷竝ニ關係諸規程

明治三十七年秋季一號機雷即チ當時ノ連繫水雷考案試製セラレ實用スルニ足ルモノアルヲ認メ同年十月末之ガ取扱及用法ニ關スル簡單ナル教示ヲ與ヘタルハ第二節第一項ニ述ブルガ如シ爾後翌三十八年日本海々戰ニ先チ東郷聯合艦隊司令長官ハ之ガ大規模使用ヲ企畫シ其ノ戰策ノ一部トシテ所謂奇襲隊ノ編制及其ノ運動要領ヲ示セリ(同役戰史參照)

右ト相前後シ一號機雷裝備ノ各驅逐隊艇隊ニ於テモ之ガ用法ヲ定メ日本海々戰ニ臨ミシガ左記ハ第二驅逐隊(隴、雷、電、曙)ニテ定メタル特種水雷撤布法ニシテ一例トシテ掲記ス

## 第二驅逐隊制定特種水雷撒布法要領 (明治三十八年)

(初頒制定)

特種水雷ノ撒布ハ編隊若クハ單艦艇ニテ施行シ魚形水雷襲撃前ニ行フテ例トス編隊撒布ハ月夜若クハ暗夜ニシテ遠距離ヲ望見シ得ベキ場合ニ施行ス

單艦撒布ハ暗黒ノ夜其ノ他遠望シ能ハザル場合ニ於テ行フモノトス但シ特令無クレバ有利ナル編隊撒布ヲ行フテ例トス連繫索ハ二組ヲ連結シ發光器ヲ其ノ末端ニ附着ス

## 一、編隊撒布法

一、敵ノ前方數千米ノ所ニ至リテ距間ヲ閉縮シ要スルトキハ速力ヲ減ジテ敵ノ針路ヲ確メ漸次直前ニ進行シ適當ノ所ニ至ラバ投下用意ノ信號ヲナス此信號終ルト同時ニ急速力ニ復シ一、三番艦ハ右(左)六點ニ變針シ二番艦ハ左(右)六點ニ四番艦ハ直徑約六百米ノ圍ヲ畫キツツ右(左)二十四點ニ變針シ新正面ニ向フヤ一、二、四番艦ハ直ニ投下ヲ始メ三番艦ハ信號ヲ俟テ投下スルモノトス

二、司令乘艦艇ヲ敵側ニ近キ先鋒翼トシ單梯陣ヲ作り敵針ヲ横過スルト同時ニ司令乘艦ニ微ヒ投下シ約八點ノ針路變換ヲナシ漸次司令艇ノ通跡ニ入り然ル後魚雷襲撃ニ移ルモノトス

三、敵艦ノ前方ヲ斜ニ逆航シ信號ニヨリ各艦一齊ニ二點ノ變針ヲナシ投下シ終テ更ニ魚雷ノ舷側發射ヲ施行ス

四、敵艦ノ正面ヨリ逆航シ信號ニ依リ第一小隊ハ右方(敵ニ向ヒ)第二小隊ハ左方四點ノ變針ヲナシ更ニ信號ニ依リ二點外方ニ變針スルト同時ニ水雷ヲ投下シ終テ兩側ヨリ魚雷ノ舷側發射ヲ施行ス

五、夜間殊ニ視界狭小ナルトキ及波浪高キ場合ニハ適宜敵ト並航シ魚雷ノ發射ヲ試ミ尙強行敵ノ艦首ニ斜航シ信號ニ依リ二點内外ニ變針スルト同時ニ水雷ヲ投下ス

## 二、單艦撒布法

一、單艦撒布モ亦編隊ノ時ト同ジク敵ノ直前ニ進行シ番號順序ニ逐次投下スルモノトス  
但後續艦ハ敵ト觸接ヲ保チツツ前續艦ノ投下終ルヲ見テ發動スルモノトス

即チ今日ニ見ル用法上ノ基礎特ニ敷設法、運動法ノ如キ已ニ當時ニ於テ實現セラレタリトモ認メ得ルモノナリ

上記ノ如ク敵艦隊ニ對スル直接的用法ト共ニ海峽防禦ノ一方便トシテ敷設水雷、機械水雷ニ代ルベキ用法ニ就キ同戰中企畫實行セラレタリ即チ露國來東艦隊ノ津輕海峽通過ニ備フルニ當時ノ連繫水雷ヲ大規模ニ準備セルモノニシテ之ガ導因及實行ノ詳細ハ別紙第一ニ示スガ如シ

明治四十一年海軍大演習ノ際第一艦隊司令官野元綱明ノ定メタル用法要領左ノ如シ

特種水雷敷設ハ左記標準ニ據ルベシ

(1) 晝戰

二基隊ヲ以テスルトキハ襲撃ヲ命セラレタル各隊ハ直ニ四點乃至八點右(左)ニ正面變換ヲ行ヒ後續隊ハ敵艦隊ノ斜前ニ前續

隊ハ其ノ正面ニ各進出シ特雷ヲ撒布ス

全隊ヲ以テスルトキハ主隊ト共同作戰ノ場合ニ於テハ敵艦隊ノ先頭竝ニ非戰側ヲ包圍撒布ス

主隊ト共同セザルトキハ各隊ハ敵艦隊ノ正面及兩側ヲ包圍ス

退却戰ニ際シテハ我主隊ト敵ノ中間ニ在リテ主力ノ退路ト略直角ニ撒布ヲ行フ本撒布ニアリテハ主力ノ退路ヲ同時ニ通報スルヲ例トス

(2) 夜戰

基隊毎ニ奇襲撒布ヲ行フテ原則トシ潛航肉薄襲撃ヲ加フ而シテ日没前豫メ攻撃目標ヲ指示スルヲ例トス

全隊ヲ以テ特雷包圍ヲ爲サントスルトキハ晝間撒布ノ要領ニ從フ

斯クノ如クシテ明治四十二年頃ヨリ逐次敷設、一齊敷設、人字運動(人字敷設)、一字運動(一字敷設)

等ノ呼稱ヲ聞クニ至レリ

乙種機雷ニ關スル取扱説明書ハ明治四十三年頃艦政本部ヨリ始メテ關係部隊ニ供給セラレシガ教範草案ノ供給ハ大正五年三月ニ始マル而シテ本草案ハ大正七年六月ヲ以テ改定發布ヲ見爾後部分的改定ヲ經テ今日ニ及ベリ

操式ニ關スル規程ハ大正五年三月甲種機械水雷操式草案乙種機械水雷操式草案及視發水雷操式草案(二者合本)トシテ發布セラレタルヲ嚆矢トシ大正六年十月一號機雷操式草案ナル單行冊ニ改メ更ニ大正十二年三月ヲ以テ一號機雷操式操案トシテ大改定發布ヲ見タリ左ニ内容ノ一般ヲ比較表示ス

<p>大正五年三月發布草案</p> <p>一、總則 要旨、乙種機械水雷及落下管ノ呼稱、配置及其ノ任務、號令、敷練</p> <p>二、乙種機械水雷操法 通則、裝備操法、敷設準備操法、敷設操法</p>	<p>大正十二年發布草案</p> <p>一、總則 要旨、敷設裝置及一號機雷ノ呼稱、一號機雷ノ各種狀態ニ對スル定義、配員及任務、號令命令</p> <p>二、操法 通則、裝備操法、敷設準備操法、敷設操法</p>
--	---

前記教範及操式等ノ制定ハ遠クハ三十七、八年戰役及其ノ以後ノ實驗訓練ノ結晶タルハ論ナキモ特ニ之ガ直接貢獻ハ實ニ大正四年以後ノ徹底的訓練ニ依ルモノ多キハ特筆ノ價值アリ  
一號機雷使用上ノ基幹ヲ形成スベキ敷設法ニ關スル規程ハ永年ニ亘リ制定ヲ見ザリシガ大正十年五月

始メテ一號機雷敷設教範草案ヲ發布スルニ至リ實用及訓練上ノ多年ノ要求ヲ盈タセリ左ニ其ノ内容ノ一般ヲ掲記ス

大正十年五月四日制定一號機雷敷設教範草案内容一般

總 則

第一章 機 雷 敷 設

運則、術語定義、機雷ノ整備、敷設装置ノ整備、敷設法(單艦敷設法、編隊敷設法、敷設法ノ選定)

第二章 敷 設 運 動

運則、敷設運動法、敷設運動法ノ選擇、敷設運動ノ守則

第三章 敷設ニ關スル參考要素

敷設線ノ變形、敷設線ノ重複

(參考)

一、敷設法ノ分類解説

(一) 單艦敷設法 一隻ヲ以テ單獨ニ敷設スル方法ヲ謂フ

(二) 編隊敷設法 二隻以上ヲ以テ敷設スル方法ニシテ逐次敷設法、一齊敷設法ノ二種ニ分ツ

二、敷設運動ノ分類解説

(一) 一字運動 敷設法ノ何タルヲ問ハズ敷設線ノ形狀略一字形ヲ爲ス如ク運動スル方法ニシテ單隊又ハ聯隊ヲ以テ

行フモノトス

故ニ本運動法ニヨル敷設法ニハ自ラ一字運動逐次敷設及一字運動一齊敷設ノ二種アリ

(二) 人字運動 敷設法ノ何タルヲ問ハズ二隊ニ分離シ互ニ連繫ヲ保持シツツ其ノ協同動作ニヨリ敷設線ノ形狀略人

字形ヲ爲ス如ク運動スル方法ニシテ通常編隊聯隊ヲ以テ行フモノトス

故ニ本運動法ニヨル敷設法ニハ自ラ人字運動逐次敷設及人字運動一齊敷設ノ二種アリ

前記諸教範操式等ノ制定後兵器機構ノ改善竝ニ訓練實驗上ノ成果ニ鑑ミ今ヤ夫々改定ヲ要スルトコロ少ナカラズ亦一號機雷敷設訓練規則ノ如キ訓練勵行上制定ヲ要スルモノノ一ナルモ何レモ未ダ實現スルニ至ラズ(昭和五年八月)

既述ノ如ク大正初頭以來一號機雷ノ進歩改善ヲ圖ルト共ニ實戰場裡ニ於ケル本兵器ノ用法ニ關シ特ニ訓練研究スルトコロアリシガ後者即チ本兵器ノ戰術的用法ニ就テハ其ノ價值ト共ニ尙截然タル斷案ヲ下シ難キモノアリ先ニ大正十三年聯合艦隊ニ於テ之ガ大規模實驗ヲ企テ翌十四年小演習ニ於テモ之ガ歸結ヲ得ントセシモ共ニ其ノ目的ヲ達スルニ至ラズ昭和ニ入り同四年、五年ニ亘リ前節末節ニ見ルガ如ク之ガ闡明ニ相當努力スルトコロアリシガ尙其ノ研究稍徹底ヲ缺クトコロアリ充分權威アル結論タラシムル能ハザリシモ此間本機雷ニ關スル多年ノ訓練實驗ハ自ラ相當有力ナル歸結ヲ與ヒ今日ニ於ケル概括的憑據ト爲スニ足ルモノアリ別紙第二ハ之ガ梗概ナリ亦別紙第三ハ昭和五年第一水雷戰隊戰策中一號機雷ニ關スル事項摘要ニシテ今日ニ於ケル實施部隊側ノ實地用法上ノ標準ヲ示スモノト見ルベク他ノ一參考資料トシテ添付ス

因ニ記ス海戰要務令ニ於テハ本機雷ノ用法ニ關シ記スル處極メテ少シ大正九年第二改正海戰要務令中

水雷戰隊ノ晝戰ノ部ニ於テ記スルモノ左ノ如シ

水雷戰隊ノ機雷攻撃ハ最高指揮官之ヲ命ズルヲ例トス水雷戰隊指揮官又ハ驅逐隊指揮官獨斷之ヲ行ヒタルトキハ直ニ全軍ニ通報スルヲ要ス

昭和三年第三改正海戰要務令中戰鬪一般ノ要領中ニハ左ノ如ク改訂セラレアリ

戰鬪中機雷ノ使用ハ最高指揮官之ヲ令スルヲ例トス各部隊指揮官獨斷之ヲ敷設スル場合ニハ累テ友隊ニ及ボサザルニ留意ヲ要ス而シテ其ノ何レノ場合ニ於テモ之ヲ敷設シタル指揮官ハ其ノ位置及時刻ヲ速ニ各隊ニ通報スルヲ要ス

別紙第一

津輕海峽防備ト連繫水雷

明治三十七年末ヨリ三十八年春季ニ亘リ露國浦鹽艦隊ハ先ニ蔚山沖海戰ニ於テ被リタル損害ノ修理ニ忙ガハシク露本國ヨリ來東中ノ第二太平洋艦隊ト相策應シテ將ニ大ニ活動セントスルモノノ如ク津輕海峽防備ノ要ハ益々急テ告グルニ至レリ

之ヨリ先連繫水雷ノ機械的調査ハ一應結了シ之ヲ津輕海峽ニ使用セムニハ現地海面ニ適スルヤ否ヤテ調査スルノ必要アリテ大本營ニ於テハ其ノ議進行中ニ屬セシニ偶々三十八年四月十八日加藤聯合艦隊參謀長ハ同海峽防禦ニ關シ軍令部長ニ對シ左ノ提言ヲ爲セリ

連繫水雷約五〇組ヲ小索ニテ約五十呎間隔ニ連結シ約八海里ノ全長トシ敵艦隊ノ通過ヲ知ラバ其ノ前路約二十海里ニ急速投下シテ其ノ航路ヲ攔斷スル如クセバ必ず有効ナルベシ今機雷ノ動作ヲ案ズルニ敵艦隊ノ先頭ガ八海里ノ連繫水雷ノ一端ニ衝突觸發スレバ其ノ附近ニアル小索部ハ互ニ張力ノ爲切斷セラレ單ニ敵艦ニ掛リシ一部ノミヲ失ヒ其ノ兩側連繫水雷ハ尙一直線ニ殘リテ後續ノ敵艦ヲ破ルベシ聯合艦隊ニテハ驅逐艦曉ニ十組ヲ積ミ約二海里ノ全長ヲ以テ白晝ニ利用セントスルモノナレトモ津輕海峽ノ防禦等ニ

ハ至極簡單ナリト認メ御參考迄ニ申進ム

茲ニ於テ軍令部長ハ海軍大臣ニ向テ津輕海峽ノ如キ潮流急激ナル場所ニ於テ實際上有効ニ連繫水雷ヲ使用シ得ルヤ否ヤヲ試験セシム  
ムコトヲ協議セシニ大臣ハ直ニ委員ヲ任命シ大湊水雷團及軍艦韓崎ト協同シテ四月二十九日ヨリ其ノ實驗ニ從事セシメシニ數回實驗  
ノ結果ニ依リ五月七日軍令部長ニ向ヒ左ノ通意見ヲ提出セリ

連繫水雷ハ津輕海峽ノ防備ニ必要ナルモノニシテ其ノ敷設計畫ハ東口ニ於テ松倉川尻ト福浦崎ノ結合線上ニ於テ松倉川尻ノ南七海  
里ノ點ヨリ南六海里間ニ南北ニ並行スル四線ヲ敷設セバ約二時間ニテ最狹部ニ達スベク敵ノ東西何レヨリ來ルモ尻矢及龍飛ノ北方  
ニ出現シタル時機ニ敷設セバ潮首、大間結合線上附近ニテ敵ニ撞着スベシ之ヲ施行スルニハ敷設用トシテ水雷百二十個ヲ搭載スベ  
キ艦船四隻ト毎回ノ敷設ニ水雷約五百ヲ要ス

乃チ軍令部長ハ連繫水雷ヲ以テ津輕海峽ヲ防禦シ得ルモノト判定シ同年五月津輕海峽防禦計畫要領ヲ策定スルコト左ノ如シ

#### 津輕海峽水雷防禦計畫要領

- 一、津輕海峽ノ水雷防禦ハ東口ニ於テシ連繫水雷ヲ使用ス
- 二、連繫水雷ノ敷設面ハ六海里ニ亘ル長サヲ有スル六條ノ並行線ヨリ成リ各線ノ水雷數ヲ百三十個トス
- 三、水雷敷設ノ位置ト時機トハ當時ノ海流及敵ノ速力ニ關スルヲ以テ二、三ノ敷設位置ヲ豫定シオキ東口ノ最狹部ニ敵ノ入りタル  
後水雷ノ觸撃ヲ與フル如ク時機ヲ計リ且海峽ノ中央航路ニ浮流セシムル如キ位置ヲ選ビテ敷設スルモノトス
- 六條ノ敷設線ハ六隻ノ敷設船ヲ以テ同時ニ敷設シ敷設終リシ後一時間乃至一時間半ニテ敵ニ會セシムル如ク敷設スルヲ効力多  
シトス

四、敷設面ノ南北兩端ハ水雷敷設ト同時ニ擬水雷ヲ散布浮流セシム其ノ數二百個

五、敵ヲ監視シ豫メ通信ヲ爲サシムル爲適宜ノ距離ニ無電ヲ有スル哨艦ヲ派遣シ敵更ニ海峽ニ近接スルニ及テ確實ノ位置ヲ通信セ  
シムル爲陸上ニ見張所ヲ設ク其ノ位置左ノ如シ

尻矢崎、下風呂、大間崎、函館、鹽首、日浦、蕨山

六、連繫水雷ヲ敷設スルニ當リテハ海峽ヲ通過セントスル船舶ノ通航ヲ差留ムル爲附近各燈臺所在地等ニ於テ特別ノ信號ヲ爲サシムルモノトス

斯クテ五月二十七日連繫水雷敷設船隊ヲ左ノ如ク編制シ爾他警備艦船ト共ニ露國増援艦隊ノ北上ニ備フルトコロアリタリ  
韓崎丸、日英丸、肥後丸、榮城丸、東郷丸

## 別紙第二

### 一、敵分力ノ合同阻止

一號機雷ノ戰術ノ用法ニ關スル一般的歸決梗概(昭和五年海軍水雷學校)調製

將來寡ヲ以テ衆ニ對セン爲ニハ局所の優勢ヲ占ムルコト絕對ニ必要ナリ從ツテ敵分力ノ合同阻止ハ戰術實施上重要ナルトコロニシテ斯ノ如キ場合本兵器ハ應分ノ効果ヲ發揚シ得ルナラン而シテ此場合ハ必ズシモ極度ニ敵ニ近接スルノ要無ク唯敷設時機、敷設原ノ選定ハ戰勢ノ推移ヲ豫察シ得ル最高指揮官ニアラザレバ容易ニ決定シ能ハザルベク萬一部隊指揮官獨斷敷設シタル場合ハ速ニ全軍ニ通報シ最高指揮官ヲシテ之ガ利用ニ容易ナラシムルト共ニ味方ニ危險ヲ及ボスコト無カラシムルヲ要ス

### 二、誘致離脱(退却)戰ニ於テ敵ノ追躡行動ヲ遑滯セシメ或ハ待機的ニ效果ヲ發揚セントスル場合

誘致離脱退却戰ニ於テハ各種兵器ヲ活用シ得ル對勢ノ得易キハ言フ迄モ無シ即チ此種戰ニ於テハ友軍ニ對スル顧慮少ク且ツ必ズシモ極度ニ敵ニ近接敷設スルノ要無ク最モ利用ノ機會多ク主隊亦之ガ利用ヲ策スルニ便ナリトス

### 三、敵主力ノ前程ニ敷設シ直接效果ヲ期待スル場合

實間艦隊決戰ニ於ケル本用法ハ實ニ一號機雷ノ最大使命ニシテ從來最モ多ク實驗研究セラレタル所ナリ然レドモ今日迄ノ研究ヲ綜合スレバ遺憾ナガラ戰術實施ノ困難ナルト職務上ノ煩雜ナルトニヨリ實施ノ可能性少キモノト見ザルベカラズ即チ直接效果ヲ

期待センニハ敵ノ回避運動ニ應ズル爲敵ノ前程概ネ一五〇〇米ヨリ敷設セザルベカラズ此際ニ隊ヲ以テ人字敷設ヲ行フモ尙同  
 避猶豫僅ニ内外各三點附近ニシテ襲撃部隊ハ敵主力ニ對シ一萬米附近迄近接ヲ餘儀無クセラレ而カモ運動不知意ナル本期間敵主  
 力及補助部隊ニヨル攻撃ニヨリ多大ノ損害ヲ被ル機會多ク寧ロ魚雷攻撃ヲ決行スルニ若カザルヲ思ハシム更ニ將來戰ニ在リテハ  
 航空機竝ニ警戒艇艇ヲ以テスル前路警戒嚴重ナルヲ思ハサルベカラズ結局此種用法ハ左記ノ如キ特種ノ場合ノ外實施極メテ困難  
 ナンラ

(4) 魚雷ヲ耗盡シタル後ノ攻撃手段

(a) 夜戰黎明及薄暮戰等視界狹隘ナル場合

四、敵ノ一側回避又ハ一側ニ對スル行動ヲ阻止セントスル場合

本用法ハ間接的用法ナルモ其ノ效果ヲ發揚セントセバ相當距離ニ迫リ敷設ヲ行フニアラザレバ實効ヲ擧ゲ難ク敵主力ニ對シ驅  
 逐隊ヲ以テ此種用法ヲ行ハシメトスルハ前項同様實施極メテ困難ナルベシ

五、敵ノ反轉ヲ脅威シ又ハ之ニ備ヘントスル場合

敵ノ反轉時ハ多クハ砲力ノ發揮困難且隊位停滯スル時機ナルヲ以テ敷設實施ハ容易ニシテ而カモ反轉後ノ敵ニ對シ直接間接相當  
 ノ效果ヲ發揮スルヲ得ベキ望ミ多シ

六、特種作戰假令ハ水道ノ一時的閉塞又ハ敵輸送船團攻撃ノ一策トシテ使用スル場合

海深大ナル水道ヲ強行通過セントスル敵ヲ阻止セントスル場合ニハ使用ノ機會相當アルベク亦低速ニシテ水中防禦皆無ナル輸送  
 船團ニ對シテハ大ナル效果ヲ期待スルヲ得ベシ

昭和五年第一水雷戰隊戰策中一號機雷關係事項(摘要)

一、機雷戰ノ實施ハ之ヲ特令ス但シ戰況特ニ之ガ實施ヲ有利トシ而カモ友隊ニ累テ及ボス處ナキ場合ニハ艦長司令ノ所信ニ依リ獨斷之ヲ實施スルコトヲ得此場合ニハ遲滯ナク之ヲ友軍ニ通報スルヲ要ス

二、襲撃法

一字運動ヲ主用シ敵ノ前程ヲ橫斷シ又ハ敵ノ先頭ニ對シ又擊的ニ襲撃ヲ行フモノトス

三、敷設法

旗艦ノ敷設法ハ特令無キ限り艦長ノ定ムル所ニ依ル

驅逐隊ノ敷設法ハ左記ニ依ルモノトス

(一) 一字運動逐次敷設法

單縱陣又ハ縱陣列ヨリ行ヒ敷設下令ト共ニ殿艦ハ指示側ニ十度回頭ト同時ニ敷設ヲ開始ス前續艦ハ適當ノ時隔ニヨリ順次前記ノ要領ニテ敷設ヲ行フ各艦敷設ヲ終ラバ前續艦ノ敷設終了ヲ見テ之ニ續航シ原隊形ニ復ス

前記時隔ハ一艦一回敷設機雷數ヨリ三個ヲ減ジタルモノニ對スル所要敷設時間トス

(二) 一字運動一齊敷設法

單縱陣又ハ縱陣列ヨリ行ヒ敷設下令ト共ニ各艦ハ指示側ニ二十度ノ一齊回頭ヲ行ヒ轉舵一齊ニ敷設ヲ開始ス各艦敷設ヲ終了セバ原隊形ニ復ス

(三) 前續各艦ハ敷設終了時ヲ後續各艦ニ通報スルモノトス

四、測定諸元

諸元	晝戰	夜戰
爆發時間	二分	一分

注	水	時	間
三	〇	分	
一	〇	分	
一	分		

## 五、敷設數

各艦一回ノ敷設數ハ特令無キ限リ八個トス

(註)昭和五年第一水雷戦隊ハ旗艦神通、驅逐艦若竹型等ノ二等驅逐艦ヨリ制ル